2026-27Weekly Bulletin Tanabe Hamayu Rotary Club

会長：杉山竜二　幹事：坂本耕作　会報委員長：坂本晶彦
事務所：〒646-0029 田辺市東陽 1-1　闘雞神社会館内
田辺はまゆうロータリークラブ TEL0739-26-6181
例会場：〒646-0029 田辺市東陽 1-1　闘雞神社会館　TEL0739-22-0155

創立年月日：1992 年 1 月 21 日　例会日：毎週火曜日 18：30～
URL：http://www.aikis.or.jp/~t-hamayu/ E-mail:t-hamayu@vm.aikis.or.jp



クラブテーマ

みんなに奉仕
みんなで交流

2026-27 年度 RI 会長
オラインカ・ハキーム・ババロラ

第 2640 地区ガバナー
岡本弥生



田辺市長　真砂充敏様

会長挨拶　杉山竜二

本日は、田辺市長 真砂充敏様の卓話です。現状の田辺市、今後の田辺市についてお話頂きます。我々もしっかり聞いて協力出来ることは協力・助け合いながら良い田辺市にしていきましょう！

先日、熊本地震支援金を紀伊民報にお持ちいたしました。日赤を通じて送られます。また記事にも出ると思います。気を付けて見ていてください。

10 月は地域社会の経済発展月間・米山月間です。10 月 13 日はガバナー補佐訪問、11 月 10 日にはカバナー公式訪問です。多くの方のご参加お願いいたします。

本日のロータリーソング
君が代
四つのテスト

Today’s Meeting
2026 年 *10* 月 *6* 日（火）
クラブフォーラム
「地域社会の経済発展月間」
意見交換

Next Week’s Meeting
2026 年 *10* 月 *13* 日（火）
ガバナー補佐事前訪問
「クラブ協議会」
ガバナー補佐　沼田弘美様

出席報告　(第 1558 回)

会員数	出席免除	欠席者	出席率
28 名	2 名	10 名	60.00%

ゲスト
田辺市長　真砂充敏様

お客様
三栖龍太郎様　宮井裕子様
堀口　登様　中嶋健慈様
山﨑貴宏様
田辺市役所秘書課　杉本様



幹事報告
例会変更
○和歌山北 RC　10/12（月・祝）→休会
10/26（月）→10/29（木）18：30～20：30　わらいや
（予定）«移動夜間例会»
○和歌山東 RC　10/8（木）→18：30～一橋庵
10/22（木）→休会
○有田 RC　10/8（木）→ローテーションデーのため例会場変更
特別養護老人ホーム田鶴苑
10/15（木）→休会
○田辺東 RC　10/14・28（水）→休会
10/21（水）→移動例会　紀州・白浜温泉「むさし」
18：30～（予定）
«田辺はまゆうＲＣとの合同例会＆懇親会»

○白浜 RC　10/2（金）→10/6（火）18：30～«夜間例会»
　　10/23（金）→10/27（火）18：30～«夜間例会»
　　10/9･16･30（金）→休会

配布

○週報 1558
○2026-27 ロータリー米山記念奨学事業 豆辞典
○ロータリーの友 10 月号

回覧

○高松南ＲＣ　第３回一日会親睦ゴルフコンペのご案内
○2026-2027 年度地区補正予算案の送付について（事前提示）
○ロータリー米山記念奨学会　2025 年度決算報告
○ロータリー米山記念奨学会　2025 年度事業報告書
○令和８年度麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動街頭啓発の実施について（依頼）
○令和８年度赤い羽根共同募金運動について（ご協力のお願い）
○第５５回ロータリー研究会ご案内および登録取りまとめのお願い（第２信）

お知らせ

○闘鶏神社よりお知らせ
無料駐車場が 10 月 13 日（火）より工事のため、ご利用できません。つきましては、有料駐車場をご利用下さい。

委員長報告

◎出席・交流・親睦委員会　委員長　原田　覚



高松南ロータリークラブ第３回一日会親睦ゴルフコンペのご案内が届いています。日時は１１月８日（日）満濃ヒルズカントリークラブです。是非ご参加ください。

プログラム

「田辺市の現状と課題　質疑応答」

田辺市長　真砂充敏様



田辺はまゆうロータリークラブの皆様には、日頃から田辺市政各般にわたりご協力いただいておりますことに、まずもってお礼を申し上げます。

本日は質疑応答の時間ということですが、はじめに現在の田辺市の状況についてお話したいと思います。テーマは「田辺市の課題」です。

その大きな課題の一つが「人口減少」です。これは田辺市だけではなく、日本全体が直面している課題でもあります。日本の人口が今、非常に速いペースで減少していることは、皆様もご存じのとおりです。

明治維新から約 100 年かけて 1 億 2,000 万人に達した日本の人口は、今後 80 年から 100 年ほどかけて、江戸時代頃の約 3,500 万人まで減少するとの推計もあります。昨年生まれた子どもの数は、いよいよ 70 万人を下回り、66 万人程度になったといわれています。予想以上の減少です。団塊の世代といわれる昭和 24 年生まれの方は約 226 万人おられますので、この 66 万人という数字がいかに大きな課題を示しているかがお分かりいただけると思います。

田辺市は、合併から 22 年目を迎えました。合併当時、2005 年の国勢調査では、5 つの市町村を合わせた人口はおよそ 8 万 5,000 人でしたが、毎年約 1,000 人ずつ減少し、22 年間で約 2 万人減少しました。現在の人口は約 6 万 5,000 人となっています。全国平均よりもやや早いペースですが、多くの地域が同様の状況に直面しています。

私は、人口が減ること自体を必ずしも悪いことだとは考えていません。しかし、適正人口が何人なのかについては明確な定義がなく、答えもありません。一方で、人口減少によって様々な課題が生じることは間違いありません。

例えば、各事業所における人材不足、農林水産業の担い手や後継者不足、さらには空き家問題などです。最近では「墓じまい」だけでなく「家じまい」という言葉もきかれるようになりました。今後、空き家はさらに増加していくことが予想されます。

また、地域コミュニティの課題もあります。人口減少だけが原因ではありませんが、町内会では役員の担い手不足がたびたび話題になります。地域活動を支える人材そのものが少なくなり、その影響が様々な場面に現れているのです。

人口減少には、大きく分けて 2 つの要素があります。一つは「自然減」、もう一つは「社会減」です。

社会減とは、転出者数が転入者数を上回ることを指し、自然減とは、亡くなる方の数が生まれてくる子どもの数を上回ることを指します。人口減少を抑制するためには、転出を減らし、転入を増やし、そして子どもの数を増やしていくことが必要です。亡くなる方を減らすことはできませんが、健康で長生きしていただくことは大切です。田辺市でも、それぞれの分野において様々な取組を進めていますが、簡単に解決できる課題ではありません。

今年の二十歳の集いの対象者は約 650 人でした。一方で、昨年生まれた子どもの数は 300 人を下回っています。様々な施策を講じているものの、すぐに成果が表れる状況ではないというのが現実です。

そのような中、田辺市が特に力を入れているのが交流人口の拡大です。定住人口が減少する中で、観光客をはじめとする交流人口を増やしていこうと取り組んでいます。

「関係人口」という言葉をお聞きになったことがあるでしょう

か。交流人口と定住人口の間に位置付けられる考え方で、近年大変注目されています。

関係人口とは、単に地域を訪れるだけではなく、地域と継続的な関わりを持ちながら、地域課題の解決に協力したり、まちづくりに参加したりする人たちのことです。田辺市は８年前から、この関係人口の創出・拡大に取り組んできました。

総務省では、来年４月から「ふるさと住民登録制度」をスタートさせる予定です。これは関係人口を見える化し、地域と継続的に関わる人を増やしていこうとする制度です。

私は、この制度を推進する官民共同プラットフォームの共同代表を務めていますが、田辺市は全国に先駆けてこうした取組を進めてきました。住民票のある人口だけを見て減少を嘆くのではなく、住民票がどこにあっても定期的に田辺市と関わってくださる方を増やし、人口減少を補っていこうという考え方です。

元気で持続可能なまちをつくるためには、関係人口の拡大や二地域居住を進め、地域と都市部を行き来する人を増やしていくことが重要です。国も現在、そのためのデジタル基盤やアプリの整備を進めています。

人口が減少する中にあっても、住所に関係なく田辺市と関わり続けてくださる方を一人でも増やし、この地域の活力を将来につないでいきたいと考えています。

さて、少し明るい話題にも触れたいと思います。

ある方がAIに「全国で今後大きく伸びる可能性のある地域はどこか」と尋ねたところ、その答えが、なんとこの紀南地域だったそうです。意外に思われる方もおられるかもしれませんが、全国的に見ても、これだけの条件の揃った地域は、そう多くはないというのです。

その条件とは、関西国際空港から１時間余りという立地に加え、地域内に空港があること、民間ロケットの発射基地があること、古い歴史を持つ熊野古道という世界遺産があること、吉野熊野国立公園の豊かな海岸景観を有していること、そして豊かな自然環境が残されていることです。さらに、高速道路の延伸により、利便性も着実に向上しています。

こうした条件を総合的に見れば、日本でもトップクラスの条件が揃った場所だということです。

しかし、その強みを生かせるかどうかは私たち自身にかかっています。悲観的な言葉を並べるだけでは状況は変わりません。この地域の強みを生かし、次の一手につなげていくことが重要だと考えています。

人口減少はこれからも続いていきますが、少ない人数でも豊かに暮らしていける社会へと早く転換していかなければなりません。AI技術も今後ますます進歩していきます。エッセンシャルワーカーやアドバンストエッセンシャルワーカーなど、人にしかできないような仕事については、AIの力を活用しながら、より効率的に生産性を高めていくことが重要になります。

そうした取組を着実に進めていくことができれば、この地域にはまだまだ大きな可能性があり、大きな伸びしろがあると考えています。

さて、残りの時間は、この話題に限らず、ご遠慮なく、ご意見やご要望、ご質問などをお聞かせいただければと思います。皆様との有意義な意見交換の時間にしたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いします。

【質疑応答】

Q　杉山竜二会長



先日、大阪の方で、IT関係の仕事をされている方が車を２台まとめて買ってくれました。どこでも仕事ができるので、日本各地を精査した結果、和歌山県田辺市に決められたそうです。沖縄なども検討されたそうですが、田辺が一番気に入ったそうです。

さて、質問ですが、このクラブには飲食の仕事をしている会員が数名おります。田辺の味光路が非常にさみしくなってきたとここ数年感じていて、その中で自分たちができることは何かないかということで、今、組合なりグループを作って、人を呼びこむようなことをやっていきたいなという話をしています。そこで、市から応援してくれるようなこと、また地域産業についてもこんな応援があるというのを聞かせていただけたら、前向きな感じでお仕事される方をこちらへ呼んでこれますので、市もしくは県のほうからご協力いただけるようなこと、今後の取り組みもありましたらお願いしたいと思います。

A：　９月29日付の紀伊民報に、創業が少し増えているという記事が掲載されていました。市としても、創業を目指す方への支援制度を設けています。駅前で新たに事業を始めたいというお考えがあれば、ぜひ商工振興課にご相談いただきたいと思います。ささやかではありますが、補助金などを通じて創業を応援する体制を整えています。

それにしても、人口６万人から７万人規模のまちで、駅前に約200店舗もの飲食店が集積していることは、田辺市の大きな魅力の一つだと思っています。市外から来られた方々にも大変驚かれます。さらに、もう一つの特徴は、全国チェーンの店舗がほとんど無く、地元のお店を中心に飲食街が形成されているということです。こうした飲食街が駅前にあ

るということは、観光資源としても地域文化としても大変貴重なものであり、市としても様々な形で応援していきたいと考えています。

　また、今後は外国人観光客のさらなる取り込みも必要だと感じています。駅前には多くの外国人観光客が訪れていますので、まちなかで宿泊していただき、飲食も楽しんでいただくことで、地域にしっかりと経済効果が生まれる仕組みを、皆さんと一緒に作っていければと思っています。味光路には、まだまだ大きな可能性があると思いますので、皆さんと力を合わせて取り組んでいきたいと考えています。

Q 坂本耕作幹事



　外国人観光客の話がありましたが、熊野古道へ行かれる方が多いと思うのですが、田辺が中継地点となっていて、夕方の３時～5 時頃に外国人が味光路を回られているのを見かけます。地元の人でも分からないような、元々城下町であるので、どこにどういう店があって、どういう特徴があるというのがなかなか外国の方には伝わらないと思います。

　例えば外国人専用の大きな多国籍案内看板であったりとか、マップ的なものをグーグルと連携して詳しく表示されればいいなと思います。

　県外や海外の方は、白浜を目的地とされることが多いと思うので田辺を通り過ぎてしまわれます。白浜町の協力を借りて交通インフラ、タクシーやバスの自動化をして、白浜は観光地として白良浜や旅館があり、田辺には安くて美味しく食べられる味光路があるので、自治体ごとの利点を使って観光客にお金をおとしてもらえるという仕組みは構築してはどうかなと思います。

A：　味光路における外国人観光客向けの案内については、大切な視点だと思います。現在も、田辺市熊野ツーリズムビューローを中心に様々な取組を進めていますが、より分かりやすい案内や情報発信が必要であれば、今後さらに充実を図っていく必要があると考えています。

　また、白浜町と田辺市の連携についてですが、近年は広域観光という考え方が定着しており、観光客を取り合うのではなく、それぞれの地域の強みを生かしながら相互に補完し合うことが重要になっています。その一例として、白浜空港と田辺駅前を結ぶバス路線があります。これは県が主導して取り組んでいるのですが、現在の実証事業では、田辺市内から白浜空港へ向かう利用者については無料で利用できる仕組みになっています。このほかにも様々な取組を進めていますが、観光振興や地域の活性化を図るうえで、白浜町との連携は今後も大変重要であると考えています。

Q 山本康夫



ご公務がお忙しいと思うのですが、お時間のある時はどんなことをされていますか？



A：　無類の釣り好きですが、なかなか釣りに行く時間がとれません。その代わり、自宅に小さな庭があるので、時間があると草引きや草刈りをしています。そうした作業に没頭するのが好きで、私なりのストレス解消法となっています。

　また、サウナも好きなのですが、最近はなかなかゆっくり利用する時間が取れていません。とはいえ、心身をリフレッシュするにはとても良いものだと思っています。

※他にも元市職員の交通費不正受給についての質問や、町内会などの地方自治のあり方など多岐にわたる質問に答えていただきました。ありがとうございました。

ニコニコ箱

杉山竜二　シルバーウィークはいかがお過ごしでしたでしょうか。本日は真砂市長、今後の田辺市についてよろしくお願いします。

坂本耕作　本日は真砂市長、卓話よろしくお願いいたします。

菅根　清　本日は田辺市長様ありがとうございます。

原田　覚　本日は田辺市長 真砂充敏様よろしくお願いします。

山本敦洋　**菊池正紀**　**大田忠博**　**川邉久道**
狩野智成　**中峰千世子**　（同文）

山﨑貴宏　お久しぶりです。少しだけ体重が減りました。１１月に２人目の子供が産まれる予定です。また女の子です。

